

備前市事務事業評価シート

(平成23年度事業)

事業の概要		事業開始年度	昭和43年以前	根拠法令・例規等	安全な血液製剤の安定供給の確保に関する法律	
総合計画	大項目	基本目標	02 健康でやさしさあふれるまちづくり	問	担当課(室)	保健課
	中項目	基本施策	02 健やかで生き生きしたまちづくり	合	職・氏名	健康係長・春名美郎
	小項目	施策	06 健康づくり	先	電話	64-1820
事務事業名		04	献血事業	このシート作成に要した時間		2.0 時間

事業の目的		Plan
対象(誰・何に対して)	健康な16~69歳の市民(但し60歳以上は60~64歳までの間に1回でも献血をしたことがある者)	事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価
目的(何のために)	血液を必要とする人のために、善意(ボランティア)意識向上を図り、血液確保をする。	
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	市民が献血の必要性を認識し、お互いの生命を大切なものとして考えられるようになり、安全な血液確保と血液製剤の安定供給ができる。	

事業の実績		Do	
目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	献血事業	献血の必要性を啓発し、市民の理解を深めるとともに、岡山県赤十字血液センターの献血事業が円滑に実施されるよう支援する。 <献血日数>25日 <献血会場>47会場 <協力事業所>17ヶ所 <協力ボランティア団体> ロータリークラブ、備前ライオンズクラブ、吉永ライオンズクラブ、商工会青年部	

決算額	事業費等		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績	
	事業費	直接事業費	千円	0	0	0	
	必要人員	人員費	千円	0.10人	697	0.14人	798
	事業費	費	千円	697	798	385	
	財源	国	支出金				
		受	益者負担				
		繰	入金				
		市	債				
		その他()					
		一般財源		697	798	385	
	受益者負担比率	%	-	-	-		

結果指標	結果指標名		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
	結果指標量		説明	備前市内の献血会場で献血した人数(市民外も含む)		
	対前年	比	%	1,510	1,479	1,499
	活動	コスト	円	697,000	798,000	385,000
	単位	当たり	コスト	462	540	257

事業の成果		成果指標名	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値
献血可能人口からみた献血率(場所別)	目標値(A)			7	7	7	7
	実績値(B)			5.9	5.9	6.1	到達目標値
	達成率(B/A)			84.29%	84.29%	87.14%	7
成果指標設定の考え方・式や説明							
備前市の住民基本台帳15~69歳の献血可能人口に対する献血者数(場所別)の割合(献血者数(場所別)/献血可能人口)×100 (H21 1510/25774、 H22 1479/25219、 H23 1499/24,638)							

事務事業の評価		該当する項目を から へ < 「コピー」して「貼り付け」してください >	Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	市が実施するよう法令で義務づけられている 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない 事業の内容が一部の受益者に偏っている 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である 事業開始当初の目的から変化してきている 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	妥当性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い B
	市民ニーズ	市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト	単位当たりコストは前年度と比較して改善している 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい 受益者負担率は適正である 受益者負担率を見直す余地がある サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い C
	目的達成度	成果指標の設定は適切である 成果指標の到達目標値は達成できそうである 成果指標達成率は前年度と比較して向上している 成果指標達成率は80%未満となっている 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い B

進行年度(H24年度)の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明		新規献血者確保の為、H24年度中に市内の企業に献血の必要性の説明と協力依頼し、H25年度の配車計画に組めるよう連絡・調整を行う。又、献血者数が減少している会場においては、別会場実施を検討していく。献血の実施日当日には、献血センターの広報車を利用し会場周辺で広報を行う。					

総合評価		総合評価
企業の就業者数減少や休業日の増加という不利な条件下ではあるが、献血率は横ばいである。このことは商工会、ライオンズクラブ、ロータリークラブなどのボランティア団体の協力が得られていることの功績が大きい。今後市民の献血に対する意識が向上するよう、啓発等の充実を図る必要がある。		総合評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い B

平成25年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
取組目標		協力企業の拡大を目指し、各種イベント等で人の集まる時に献血を実施することを検討していく。					

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標を評価する際の留意点